

臨床研究に関するお知らせ

宮崎大学医学部看護学科では、下記の臨床研究を実施しています。皆様には本研究の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

研究課題名：香り付き不織布マスクを着用した運動後の疲労と自覚的な運動強度に及ぼす検討

1. 研究の概要

我が国においては、新型コロナウイルス SARS-CoV-2) の変異株 (BA.2 系統) の感染拡大に歯止めが立たず、感染予防の観点から、2022 年度現在においても療養の場やリハビリテーション中のマスクの着用は基本となっています。療養中の高齢者患者にとって、加齢に伴う身体的機能低下に加え、術後の身体侵襲から、マスク着用でのリハビリテーションは大きな負荷がかかります。負荷の増大は、疲労の蓄積だけでなく、リハビリテーションや離床に対する意欲低下、離床時間の短縮、効果的なリハビリテーションが行えない等の多くの問題を生じさせます。我々はマスクを着用したままリハビリテーションを行う入院患者の身体的、また精神的負荷を軽減できる方法として、アロマセラピーに着目しました。アロマセラピーとは、植物から抽出した香り成分である精油を用いて、美と健康に役立てる自然療法である。心身のリフレッシュ等を目的として行われ、美容の現場だけでなく医療や看護の現場にも応用されています。

これまでの研究では、モノテルペン炭化水素類を多く含む香りを運動時に芳香することで、乳酸のうっ滞除去や老廃物排除作用を持つことや、腹腔鏡下調節性胃バンディング術後の患者に対する精油の芳香により、オピオイド系鎮痛薬の効果を補完する、あるいは、香り自体が鎮痛薬として機能すること、精油の芳香により、疼痛の軽減や関節炎の抑制、筋緊張緩和の効果があることが報告されています。

我々は、これら香りの効果をマスクへ応用し、香り付きマスクを運動時に着用することで、運動後の疲労や運動強度に対する自覚の軽減が図れないか検証したいと考えました。「看護研究Ⅱ」で宮崎大学医学部看護学科学生に行った実験結果は、療養中の高齢者患者が、マスク着用でリハビリテーションを行う際の身体的・精神的負荷の軽減に関する示唆を得るうえで重要なデータであると考えます。本データをもとに分析した結果を学会で発表し、今後の研究の発展に役立てたいと考えております。

2. 目的

本研究は、マスク着用でリハビリテーションを行う高齢患者の身体的・精神的負荷の軽減を図る一助として、香り付き不織布マスクの効果を検討することを目的とした学術研究活動として実施されます。

3. 研究実施予定期間

この研究は、研究機関の長の許可後から 2023 年 10 月まで行われます。

4. 対象者

2021 年 9 月 13 日から 2021 年 9 月 26 日までに、本学看護学科で「看護研究Ⅱ」の実験「香り付き不織布マスクを着用した運動後の身体的疲労と気分への影響」にご協力いただいた方（当時学生）が対象となります。

5. 方法

対象となる方の実験結果（情報）、血中乳酸値、心拍数、visual analogue scal による疲労感、Borg 指数を用いた自覚的運動強度、匂いに対する嗜好性を解析し、香り付きマスクが運動後の疲労と自覚的な運動強度に与える影響を検討します。なお、個人が識別できない匿名化された情報（どの研究対象者の試料・情報であるかが直ちに判別できないよう、加工又は管理されたものに限る）を扱い、学会や論文等として発表する際は、統計学的に解析した結果（平均値、標準偏差、標準誤差等）のみ好評されるため、個人情報特定されることはありません。

6. 研究資金および利益相反について

この研究に関する経費は、実施責任者が所属する領域経費の（研究者個人に割り当てられた個人研究費）で賄われます。なお、本研究の実施責任者と研究担当者は、本研究に関連する企業および団体等からの経済的な利益の提供は受けていないため、申告すべき利益相反^{注1)}はありません。

注1) 臨床研究における利益相反とは、研究者が当該臨床研究に関わる企業および団体等から経済的な利益（謝金、研究費、株式、医薬品・医療機器、検査・解析サービス等）の提供を受け、その利益の存在により臨床研究の結果に影響を及ぼす可能性がある状況のことをいいます。

7. 疑問、質問あるいは苦情があった場合の連絡先

この研究に関して疑問、質問あるいは苦情があった場合は下記連絡先へ連絡をお願いいたします。

宮崎大学医学部看護学科

氏名：山口史剛

電話：0985-85-9819

FAX：0985-85-9819